

澤穂希選手

女子サッカーのレジェンド、澤穂希選手が現役引退を表明した。1993年に15歳で日本代表入り、20年余りにわたって第一線で活躍した、まさになでしこジャパンの顔。スポーツ選手

核心 核論

である以上、体力的な限界がいつかは来るとはいえ、代表の青色ユニホームの「10」番が最も似合う選手であった。澤選手がピッチにいない喪失感は、サッカー界だけでなく、私たちに

背中はその人を物語る

とつても小さくない。

澤選手は多くのものを残した。主将として臨んだ2011年のワールドカップ(W杯)で世界の頂点に立ち、東日本大震災の未曾有の被害に立ち尽くす私たちに

勇氣と力を与えてくれた。それと並び、いやそれ以上に記憶に刻まれている言葉がある。4位に入賞した08年の北京五輪の時、チームメイトに対し「苦しくなったら、私の背中を見て」と鼓舞した場面だ。

簡単に口にするものではない。そこには、どこまでもストイックに自身を鍛え上げ、常に全力でプレーしてきた心と体への強烈な自負が込められた一言。女子サッカーに注目が集まらない低迷期から屋台骨とし

て引つ張ってきたからこそ言えた。その澤選手の背中を追って、なでしこの選手たちは練習に打ち込み、ついにチャンピオンの座をつかむ。

スポーツに限らず、こんなりリーダーを持った部下は幸せだろう。引退の記者会見で「心と体が一致してトップレベルで戦うことができなくなった」と説明したのは澤選手らしかつた。

「親の背を見て子は育つ」とよく言われるように、背中はその人を物語る。あなたはその自信を持って背中を見せられますか。年末、あらためてわが身を省みたい。試合はまだある。ピッチを走る澤選手の背中を目に焼き付けよう。「苦労さま」の感謝とともに。

2015年
12月22日
朝刊

①澤選手は、どんな気持ちで「苦しくなったら、私の背中を見て」と言ったと思いますか。

②澤選手に言われた選手は、何を思ったのでしょうか。

年 組 名前